

【教員氏名】

串田 久治  
研究室:聖アンデレ館 7 階 713 号室  
メールアドレス:kushida@andrew.ac.jp

【授業形態】

講義 プレゼンテーション グループワーク

【講義・演習概要】

中国古代の諸思想を通して、今を読み解く講義です。  
中国の古代思想は広く東アジアに根を下ろし、人々の物の見方や考え方を形成する上で大きな影響を与えました。そして、その多くが書物となって今に伝えられています。  
本講義は、中国の知的遺産を解きほぐしながら、今日の我々が抱えるさまざまな問題を見つめ、現実の世界に目を開いて考え直し、一人ひとりの思考を深化させる場とします。  
したがって、本講義はただ聞いているだけの講義ではなく、学生諸君の積極的なアプローチと深い思索が要求されます。具体的には、数名ごとのグループに分かれ、グループで討議したことを発表し、全員でディスカッションし、その後各自が自分の考えをまとめてレポートして提出することとなります。  
なお、本講義を始めるに当たり、都合三回のオリエンテーションを行います。本講義を履修しようと思う人は、必ずいずれかのオリエンテーションに参加し、本講義の目的・講義の進め方などをしっかり理解し納得した方のみ履修することができます。オリエンテーションに参加せずに本講義に登録しても無効です。

【学習目標】

本講義は書物から学ぶものではなく、自分の頭で考え、人の意見に耳を傾け、議論し、考えを整理してそれを他者に言葉(文字)で伝える能力を身につける。

【講義計画】

- 第 1 回:オリエンテーション(1)
  - 第 2 回:オリエンテーション(2)
  - 第 3 回:オリエンテーション(3)
  - 第 4 回:第一部 発想の転換
    - 1 無用の用
    - 2 水の如く
    - 3 足るを知る
    - 4 多くを求めない幸せ
  - 第二部 真実を見抜く
    - 1 本当に大切なもの
    - 2 本当に怖いもの
    - 3 自己アピール
    - 4 リーダーシップ
  - 第三部 人と人との絆
    - 1 家 書
    - 2 ホスピタリティー
    - 3 原心定罪
  - 第四部 平和への希求
    - 1 戦争請負業
    - 2 正義の戦い
  - 第五部 国家の責務
    - 1 棄 民
    - 2 民の口を防ぐ
    - 3 五美四悪
    - 4 国 益
  - 第六部 人間の魅力
    - 1 四 知
    - 2 老いのよろこび
- のいずれか
- 第 5 回:同上
  - 第 6 回:同上
  - 第 7 回:同上
  - 第 8 回:同上
  - 第 9 回:同上
  - 第 10 回:同上
  - 第 11 回:同上
  - 第 12 回:同上
  - 第 13 回:同上
  - 第 14 回:同上
  - 第 15 回:同上
  - 第 16 回:同上

- 第 17 回:同上
- 第 18 回:同上
- 第 19 回:同上
- 第 20 回:同上
- 第 21 回:同上
- 第 22 回:同上
- 第 23 回:同上
- 第 24 回:同上
- 第 25 回:同上
- 第 26 回:同上
- 第 27 回:同上
- 第 28 回:同上
- 第 29 回:最終レポート作成
- 第 30 回:総括

【成績評価の方法】

本講義は書物から学ぶものではありません。講義中に議論し、人の意見に耳を傾け、自分の頭で考え、その考えを整理することが目的です。従って毎回出席しなければ意味ありません。また、本講義は班ごとに活動しますので、欠席・遅刻は認められません(欠席・遅刻は班の活動に支障をきたし、メンバーに多大な迷惑となります)。遅刻・欠席は講義の妨げとなりますので、講義を辞退していただく場合もあります。  
毎回の小レポートと複数回の中間レポートが義務づけられ、小レポートおよび中間レポートの不良者は最終レポート作成・提出の資格を失います。  
レポート・プレゼンテーション・ディスカッションへの積極性などにより総合的に評価しますが、出席するのが大前提なので出席点はありません。

【使用テキスト】

串田久治『無用の用』研文出版

【参考文献】

- 林語堂著『支那のユーモア』(岩波新書)
- 林語堂著『中国＝文化と思想』(講談社学術文庫)
- 宮崎市定著『中国に学ぶ』(中公文庫)
- 串田久治著『漢詩酔談』(大修館)
- 串田久治著『王朝滅亡の予言歌－古代中国の童謡』(大修館)
- 串田久治著『儒教の知恵－矛盾の中に生きる』(中公新書)
- 串田久治著『中国古代の「謡」と「予言」』(創文社)
- 串田久治著『天安門落書』(講談社現代新書)
- KUSHIDA'S WEB SITE  
<http://www1.odn.ne.jp/kushida>

【準備学習の指示(事前学習 60 時間、事後学習 60 時間)】

毎回 M-port で指示する。

【その他備考(担当教員用)】

【備考(管理者用)】